



俳句投稿十年を経て

「POLE」に俳句を投稿し始めてから十年が経ちました。最初は美しい世の中への新鮮な感動から生まれていたものが、次第に私の内面的な不安や混乱状態を反映したものとなってしまいました。何度も投稿するのを止めようかと考えたことがありました。俳句を詠むつもりで川柳になってしまったこともよくありました。それでも時には沈黙考の中で出来上がるものがあります。

kręci się kręci 風車
kolorowy wiatraczek 廻り廻って
w czerwcowym deszczu 雨彩う

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

leśna polana 森開け
pośród źdźbeł traw mignęły 草間に閃く
sluchy zająca 野兔の耳

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

畑、蛙、ボウフラと吾慈雨を待つ
ドッカンと特大花火打ち上げろ
秋風はつむじ曲がりの路地抜ける

岩見沢市、霜田千代磨

新刊紹介

『窓の向こう〜ドクトル・コルチャックの生涯』
アンナ・チェルヴィンスカ-リデル (著)、田村和子 (訳)

石風社
2021.5

戦争の記憶

戦争と聞いて何時のどの戦争を思うかで世代が分かるという。昭和23年生れの私はベビー・ブーマー戦後団塊の世代である。では昭和20年12月生れの姉は終戦世代？ 7月の池澤夏樹、3月の吉永小百合は戦中世代？ 昭和17年生れの夫も戦中世代。

『窓の向こう』の主人公はユダヤ人医師ヤヌシュ・コルチャックことヘンリク・ゴールドシュミット。1878年ロシア占領下のワルシャワに生れ、ユダヤ人孤児



施設を経営。ナチスにより二百人の子供達とともに1942年8月5日トレ布林カ絶滅収容所に送られ64年の生涯を終えた。

アンジェイ・ワイダ監督が映画化し3年前の例会で「講演と映画の集い」、パネル展も行われた。

ところでお気づきだろうか。1942年は昭和17年。夫はその時生後5カ月の乳呑み児であった。79歳の夫の誕生に注目するとき、私の未生に起きた戦争の歴史がぐいっと接近して来るのを感じた。

女性達の存在が凄い

コルチャック先生に魅せられたのは勿論だが、女性達の存在が凄い。同居の母方祖母は「お前さん、まるで哲学者だよ」と幼い孫に愛情を注ぎ、此処一番では娘婿にもピシヤリと強い態度で守る。

ステファ嬢とは互いに同志愛を感じ、一緒に孤児院を経営。妻帯しなかった先生だが、時に口煩い女房のような彼女とは、一生信頼し合った。留守の時の燥(はしゃ)ぎようといったら、子供以上の子供っ振りで、いやはやなんとも。

ポーランド女性ヴォシヤの存在も見逃せない。蔑まれた職業の洗濯をこなし、その上ステファ嬢を献身的に支え戦時下の子供達を守った。

ユーモアを武器に

厳格だった父の精神病院での死、自身のチフスの看病で命を落とした母。この哀しみを先生は執筆で乗り越え数度の従軍、迫害の苦難の日々を子供達と生き抜いた。飛び切りのユーモアを武器に。

その先生の偉人伝とせず、日常のエピソードをイキイキと表現し、語り、子守唄、お伽話風に丁寧に紡ぐ著者の力量に目を見張る。ところどころそれと分かる楽しい仕掛けもあり、これには唸(うな)った。

自由、愛、平和の象徴

「窓」「窓台」「ゼラニウム」がふんだんに出てくるが、これは空間への眼差し、自由、愛、平和の象徴。この辺りはどうかご自分で確かめて頂きたい。

暗く重い歴史を輝きと翳りでくっきりと書き切った。訳者田村和子さんも凄腕だ。文句なく上手い。言い回しの妙「軟弱者、くたばったんだわ、ですから

ですから」にはニヤリとさせられる。

解説といえる「あとがき」は行き届いた文章で歴史に弱い身には助かった。9歳位から読めるような数々の配慮にもコルチャック先生への愛を感じた。秀れた一冊である。

いま子供のあなた、むかし子供だったあなた、そんなん忘れちゃったあなた、あなたにこそ今この本を!

(菅原三栄子、詩人、本会会員)

2021 年秋のイベント

《第97回例会》講演と交流の集い「石川慶監督ポーランド映画の魅力語る!」札幌エルプラザ4階中研修室 C、9月17日(金)18:30～

《第98回例会》ポーランド名画ビデオ鑑賞&交流会『COLD WAR あの歌、2つの心』札幌エルプラザ4階大研修室 AB、10月1日(金)18:30～

《第35回定例総会》&交流会《第99回例会》第10回「午後のポエジア」動画鑑賞会、札幌エルプラザ4階中研修室、10月31日(日)総会 13:30～ & 交流会 15:00～

会員動向 (2021.5～8)

退会:石澤麻里、塚原恵美子、塚原邦夫(敬称略)

新年度 (2021.9～2022.8) 会費納入のお願い

年会費 (一般 3,000 円、学生 1,500 円)

また、維持会費としてご寄付(1口千円)も承ります。

【ゆうちょ銀行振替口座】記号 02740 5 番号 19735

【加入者名】北海道ポーランド文化協会 または

[北洋銀行(本店営業部)普通預金口座]

[店番号]028[口座番号]0605084

[名義]ホッカイドウポーランドブンカキョウカイ

北海道ポーランド文化協会 会長 安藤厚

※ご請求額は個別の納入依頼(振替用紙同封)をご覧ください。

※遠方の方はご寄付 年千円で会誌 POLE の定期贈呈も承ります。

事務局にお問合せください。

ご寄付ありがとうございます (2021.5～8)

(1口千円、敬称略) (4) 中宮典子 (2) 引田秋生、今昇

(1) 小川真生、田村和子

POLE104 目次

第35回定例総会&交流会《第99回例会》第10回「午後のポエジア」動画鑑賞会.....	1
《第97回例会》講演と交流の集い「石川慶監督ポーランド映画の魅力語る!」/映画による十戒～キエシロフスキ監督『デカログ』(久山宏一)/ポーランド映画の金字塔『デカログ Dekalog』.....	2
ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の動画から～「EXODUS」、民族舞踊ワークショップ、弦楽四重奏(小川真生、中宮典子、田口綾子).....	4
コンピュータを利用した私のアイヌ語研究(ミハウ・プタシンスキ).....	6
今秋のアマレヤ劇団北海道公演の計画(丸山博).....	7
《新刊紹介》「シヨパン全書簡」第2巻、第3巻(三浦洋).....	8
《新会員のひと言》私とポーランド(北浦由花里).....	9
《新刊紹介》『ポーランド語《詩篇》のための音楽』ゴムウカ作(黄木千寿子).....	9
『迷子の魂』トカルチュク文、コンセホ絵(長屋のり子).....	10
ポーランド&ニッポン歳時記36(津田モニカ、ピョトル・ヴジェチョノ、霜田千代磨).....	11
《新刊紹介》『窓の向こう～ドクトル・コルチャックの生涯』アンナ・チェルヴィンスカ・リデル著(菅原三栄子).....	11

発行 北海道ポーランド文化協会

〒060-0018 札幌市中央区北 18 条西 15 丁目 3-19 安藤方

電話・FAX 011-556-8834, hokkaidopolandca@gmail.com

東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-29-309 音響計画(株) 霜田気付

電話 03-6804-1058 FAX 03-6804-6058

ポーレ編集委員会



新井藤子/氏間多伊子

熊谷敬子/塚本智宏

松山敏